

2022年(令和4年)

10/16

日曜日



開発途上国の接種を支援

古着deワクチン 県内でも広がり

古着を送り、開発途上国のポリオワクチン接種などの支援につなげる「古着deワクチン」の取り組みが、県内で広がっている。サッカーJ2・モンテディオ山形がサポーターに呼びかけて実施したほか、SDGs(持続可能な開発目標)達成に協力的な企業の関心も高い。電子機器製造の富士電子(山形市)は社服のリニューアルを機に、古い社服を送ることにした。

SDGs推進企業、関心高く



「古着deワクチン」の取り組みで活用される富士電子の社服。開発途上国のワクチン接種などを支える＝山形市・同社

「古着deワクチン」の事業は2010年に始まり、現在は日本ユニースシステム(東京)と認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会(JCV)。(東京)が共同運営している。重さ30kgまで入る専用回収キット(袋)を1袋3300円(送料込み)で購入すると、1袋につき5人分のワクチン代がJCVに届く仕組み。ミャンマーやラオスなどのワクチン接種に役立てられる。

集まった古着は開発途上国で販売され、現地の雇用やビジネス創出につながっている。カンボジアに今春、直営店がオープンし、同店から他国にも輸出。企業の制服や作業着も活用されている。

県内では、モンテディオ山形が今年5月のホームゲームの際、対戦相手の大分トリニータと合同でサポーターに呼びかけ、258人の協力で34

【XMO】古着deワクチンの活動は全国に拡大し、今年8月末現在の累計でワクチン寄付数約439万人分、衣類再利用数3659万着分。1袋に約100着が入り、指定の事業所に連絡し、集荷する。衣類のほか、バッグや靴、帽子、アクセサリーなども対象。ジャパンスDGsアワード特別賞(SDGsパートナーシップ賞)を受賞。

袋分を購入。山形丸魚(天童市)もSDGsの取り組みの一環で参加した。富士電子は、作業着などのデザイン一新を機に古い社服の活用方法を模索し、未使用を含む713着を集めて9袋を購入した。同社の高橋雅之社長は「社名の刺しゅう入りで廃棄しかなかったと思ったが、SDGsを推進できる資源になった。少しでも貢献できればうれしい」と話している。(坂本由美子)